

編集後記

■編集委員 (50 音順)

出 月 康 夫
白 日 高 歩

北 島 政 樹
堤 治

北 野 正 剛
万 代 恭 嗣

小 西 文 雄
東 原 英 二

先頃聞いた話である。癌で手術を受け、3年ほどして再発のため、いよいよ自宅療養が難しくなり再入院した方がいる。主治医はもちろん長くこの方につき合っていて、気心が知れていたという。自宅での闘病を希望していたので、その希望を聞いて外来でも点滴などでなるべく便宜をはかっていた。もうどうしようもなくなつての入院であった。再入院時、主治医は家族にあと数日の命であろう旨を告げた。ところがよほど衰弱していたのであろうか、翌早朝亡くなった。すると驚くなかれ、主治医が呼ばれて、早朝、病院に着いたときには、警察が来ていた。患者の家族にいわせると「あと数日の命といったではないか。急に死んだのは何かミスがあったからに違いない」ということであつた。もちろん警察も事情がわかり、すぐに帰ったそうであるが、病院関係者の気持ちを考えて何ともやりきれない気持ちになる。

昨年の大規模無差別テロから世の中が大きく変わった。例えば、米国での航空機搭乗前の手荷物検査である。今し方、小生のたった4cm足らずのメガネドライバーが没収された。凶器になると判断されているのであろう。これも普通には理解できない無差別自爆テロを恐れてのことである。

これらのことは、「世の中には2つの意味で理解できない人がある」ということを理解すべきであると教えてくれる。つまり、こちらが理解してくれているものと思つていても実際は物事を理解していない人、そしてもう1つは、「われらは地球人、皆仲間」というような理想は空想であり、こちらの論理とはまったく噛み合わない人々がいるということである。先の話は前者の例であつて、後者ではないことを願っている。

さて、本号の特集は進行癌に対する内視鏡外科である。本年4月の保険改定で、癌に対する内視鏡外科が進行癌も含めてかなり大幅に収載された。その保険点数はともあれ、期待以上の成果であつたといえよう。これも会員諸子からいただいたアンケート結果を基にした、外保連を含めた多くの関係者の努力によるものと誌面を借りてお礼を申し上げたい。

ただ、進行癌の内視鏡外科が認められたとしても、無制限に適応し、異常に高い合併症や再発を起こしては元も子もない。慎重な適応を希望するとともに、本当に病状を理解できる人は少ないということを肝に銘じ、十分なる説明と同意が得られるように、これまで以上に努力を惜しまない覚悟で、日常診療に当たっていただきたいと願っている。

(北野正剛)

日本内視鏡外科学会雑誌 (第7巻 第4号) 2002年8月15日発行・隔月刊

Journal of Japan Society for Endoscopic Surgery (Tokyo)

1部定価: 会員には毎号送付されます。その他については、1部定価 (本体2,700円+税) (配送料85円) となります。

2002年 年ぎめ予約購読料: 16,500円 (配送料: 医学書院負担)

編集・発行: 日本内視鏡外科学会 (代表: 出月康夫)

〒113-8622 東京都文京区本駒込5-16-9 (財)日本学会事務センター内

(☎03-5814-5801 Fax 03-5814-5820 担当: 佐々木) <http://www.hop.ne.jp/~jses/>

Published by Japan Society for Endoscopic Surgery, 5-16-9 Honkomagome Bunkyo-ku, Tokyo, 113-8622, Japan

©2002, Printed in Japan

発 売: (株)医学書院 (代表: 金原 優) (本誌担当: 田村, 中田) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

〒113-8719 東京都文京区本郷5-24-3 (振替口座 00170-9-96693 番)

本誌編集室直通 ☎03-3817-5707 (Fax 03-3815-7802 E-mail: jses@igaku-shoin.co.jp)

販売部直通 ☎03-3817-5659・5660 (Fax 03-3815-7804)

印刷所 横山印刷(株) ☎03-3622-6161 (Fax 03-3625-1591)

広告申込所 (株)文栄社 ☎03-3814-8541 (Fax 03-3816-0415)

本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。